

## 様式第2号

視察研修先	東京都港区議会	氏名	安孫子 義徳
視察研修項目	本会議における手話通訳と文字通訳(字幕)について		
<p>東京都港区は、千代田区、中央区とともに「都心3区」を構成し、人口は26万人だが、昼間人口は約94万人となり、日中の活動が非常に活発な「ビジネス街」として文化、国際性が融合したエリアである。江戸時代には多くの大名屋敷が置かれ、明治以降は華族の移住地や外交の拠点となり、現在は、駐日大使館の半数が集中しており、外国人移住者も多く、多文化共生がなされており高級住宅街や商業施設、緑豊かな公園なども共存し、大地と埋立地で構成される起伏に富んだ地形が特徴である。</p> <p><b>視察目的</b></p> <p>近年、障害の有無にかかわらず誰もが議会活動を理解し、参加できる環境整備が求められている。特に聴覚障害のある方々に対しては、議会中継や傍聴における情報保障として手話通訳および文字通訳の導入が重要である。本視察では、港区議会が実施している通訳体制の仕組みや運用方法、課題と成果について学ぶことを目的とした。</p> <p><b>港区議会における取組の概要</b></p> <p>港区議会では、平成29年度より本会議において手話通訳と文字通訳を導入している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・<b>手話通訳</b>：区議会専属の通訳者を配置し、発言者の内容を逐次通訳。議場内に手話通訳者席を設け、インターネット中継にも同時に映像を反映している。</li><li>・<b>文字通訳</b>：速記技術を持つ外部委託業者がリアルタイムで発言内容を文字化し、議場内のモニターおよび区議会ホームページのライブ配信画面に表示している。</li><li>・<b>対象範囲</b>：本会議だけでなく、必要に応じて委員会審査や議会報告会などにも対応可能な体制を整えている。</li></ul> <p>また、区民からの要望に応じて、傍聴希望者が事前申請することで個別に情報保障を受けられる仕組みも設けている点が特徴的である。</p> <p><b>運用上の工夫と課題</b></p> <p>(1)工夫点</p>			

- ・手話通訳者の確保を安定化させるため、港区独自の登録制度を運用。
- ・議場でのカメラ位置や照明を工夫し、通訳映像が見やすい構図を確保。
- ・議会事務局職員が通訳者と定期的に意見交換を行い、専門用語や議会特有の言い回しを共有している。

## (2)課題

- ・議員発言が早い場合や専門的内容の場合、通訳の正確性を維持する難しさがある。
- ・継続的な人材確保と予算確保が課題。
- ・特に文字通訳では、議場の音声環境に左右されるため、マイクや音響設備の更新も必要。

## 所見

港区議会の取組は、「議会の見える化」および「誰も排除しない議会運営」の実践例として高く評価できる。単に制度導入にとどまらず、運用改善を継続している点が印象的だった。今後本市議会においても、まずは傍聴支援の体制整備や本会議中継への字幕寄与など、段階的導入を検討すべきと感じた。また、通訳者との連携体制や予算措置など、運用面でのノウハウを参考にする価値が大きい。

港区議会の事例は、障がい者差別解消法や合理的配慮の観点からも先進的であり、今後の地方議会の標準モデルの一つとなり得る。議会の開かれた運営を目指すうえで、こうした情報保障の取組を継続的に発展させていくことが重要と感じた。

様式第2号

視察研修先	埼玉県狭山市議会	氏名	安孫子 義徳
視察研修項目	狭山市議会デジタル化推進方針について		
<p>埼玉県狭山市は、埼玉県の南西に位置し、都心から40km圏内で川越市、日高市、飯能市、入間市、所沢市と隣接し、人口は約14万人である。市の中心には入間川が流れ、武蔵野の自然に恵まれ、農業も盛んで「狭山茶」が特産品であるが、他にほうれん草、さといも、イチゴ、ぶどうなども栽培されている。また、多くの企業が操業しており、製造業は県内トップクラスである。近年は首都圏のベットタウンとしても発展し埼玉県西部の中心都市の一つである。</p> <p><b>視察目的</b></p> <p>近年、議会運営の効率化と住民への情報発信力向上のため、各自治体で議会DX(デジタル化)が進んでいる。狭山市議会では、タブレット端末の導入やパソコンの議場持ち込みで会議資料の完全ペーパーレス化など、先行的な取組を進めており、その方針および具体的な実践状況を調査し、今後の当市議会のデジタル化の参考とすることを目的とした。</p> <p><b>議会デジタル化推進の基本方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 業務効率化の向上(会議資料等の電子化)</li><li>2. 議会活動の透明性向上(オンライン公開の拡充)</li><li>3. 議員のICT活用能力向上(研修の充実)</li></ol> <p>特に、「議会として自立的にデジタル化を進める」姿勢が強調され、議会内規の整備にも積極的に取り組んでいるとの説明があった。</p> <p><b>ペーパーレス化とICT機器の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議案書・資料・説明資料をすべて電子データで共有し、紙資料の作成は原則廃止。</li><li>・ 端末はセキュリティの確保のためMDM(モバイルデバイス管理)を導入。</li><li>・ 機器調達にはリース方式を採用し、更新コストの平準化を図っている。</li></ul> <p><b>会議オンライン化・情報発信の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本会議および委員会のライブ配信・録画配信を実施。</li></ul>			

- ・市民が検索しやすいよう、議事録・配信動画・資料を紐づけて公開する仕組みを整備。
- ・感染症対策として、委員会でのオンライン出席の可能性についても検討を進めている。

#### 事務局の業務効率化

- ・資料印刷、仕分け、配布作業が大幅に削減。
- ・事務量の削減により、政策立案補助作業に時間を割けるようになった。
- ・議会内の決裁・事務処理もワークフロー化し、決裁スピードが向上。

#### 所見

当初は、紙資料の併用を求める声もあったが、試行期限を設けて段階的に移行したことで、現在は完全ペーパーレスに移行している。狭山市議会は単なる「デジタル機器の導入」にとどまらず、議会運営そのものを見直す視点でデジタル化を推進している点が印象的であった。

特に、議員個々のICTスキル差への丁寧な対応、研修体制、段階的移行など、デジタル化推進に伴う課題を現実的に克服している点は大いに参考になった。

本市議会でもタブレット端末の導入により、会議資料の配布迅速化、印刷コストの削減、議事運営のスピードアップなど、議会活動の効率化が大きく進んでいるが、個々のスキルアップを図る重要性を感じた。